

特集

他団体と連携するクラブ

いきいきエンジョイ清原スポーツクラブ ＜栃木県宇都宮市＞

総合型クラブが地域に定着し、浸透するためには、地域との一体感の醸成が重要となります。そのためには、地域社会からの信頼性を確保し、地域の各種機関・団体との相互補助の関係を築くことが必要となってきます。

そこで今回は、地域の各種団体と連携し、活動を行っている総合型クラブを紹介します。



1. NPO法人格取得を断念し、会費値上げでクラブ自立
2. 近隣大学との連携には大学側のキーマンが必要
クラブ側との長いつながりが契機に
3. 他の総合型クラブと地元プロスポーツチームの協力で「スポーツ祭典」が発展

1 クラブ概要

宇都宮市の2006年スポーツ振興基本計画による市内25中学校区すべてに総合型地域スポーツクラブを設立するとの決定を受け、清原中学校地区でも2008年9月清原地域スポーツクラブ設立準備委員会を結成、活動スケジュールを策定し、それに基づいて活動を進めました。2009年4月からはクラブ立ち上げへの本格的作業に移行し、クラブ名称募集により最優秀作「いきいきエンジョイ清原」が採用されました。2010年3月27日、設立総会を開催し「いきいきエンジョイ清原」はスタートしました。

当初は、バドミントン、スポンジテニス、ソフトバレーボール、バスケットボール、エアロビクス、ティーボール、3B体操、輪投げ、ペタンク、吹き矢の10種目で始まりました。1年目の会員数は210名を数え、まずまずの出だしでしたが、東日本大震災により、清原地区においても体育施設などが多大な被害を受け、しばらくの間使用が禁止された時期もありました。

2014年3月までは発足当時の会費と宇都宮市、自治会連合会からの助成金でクラブを運営していましたが、クラブの充実を図るため、totoの助成金を申請し、2016年度までの3年間助成金をいただくことができました。この期間で、用具購入やインターネットHPの作成、広告と多方面にわたりクラブを充実することができました。しかし、2017年度以降もtoto助成金を受けるにはNPO法人格を取得せねばならず、クラブ役員で検討を重ねた結果、「知恵も人材もない」、「片手間でのNPO法人運営はできない」との結論に達しました。そこで自立のため会費を値上げし、「助成金無しでも運営できる体質をつくろう」ということになりました。

2016年6月に検討を始め、同年8月に値上げに関するアンケート調査を実施した後、同年12月に臨時総会を開催。会員の皆様に値上げに至った経緯と値上げ後の会費、今後のクラブの運営について説明を行い、了承をいただくことができました。(例:大人3600円→9600円)

2017年4月からは、宇都宮市、自治会連合会の助成金と会費のみでクラブを運営していくことになりました。アンケートの結果からは会員数の激減を予想していましたが、会員の皆様の温かいご理解の下、2018年3月末現在、前年比20%減の236名にとどまり、値上げ後2年目を迎えています。役員一同、会員の皆様のクラブ継続への熱い思いを受け止めて運営に当たらなければならないと気持ちを引き締めております。

毎年種目の見直しを行い、2018年度の種目は、バドミントン、スポーツ吹き矢、スポンジテニス、フォークダンス、卓球、ソフトバレーボール、3B体操、エアロビクス、バスケットボール、カローリング、ソフトテニス、柔道、フットサル(小学6年まで)の13種目になっています。活動場所は主に清原中学校体育館、武道場、清原中央小学校体育館、清原台2丁目公民館です。これからも地域の方々の心と身体健康維持に寄り添ってまいりたいと考えております。

2 クラブ設立前から作新学院大と協力関係 →大学生が指導者

インターンシップで大学生受け入れ

クラブ設立前から、作新学院大学からは、講演での講師派遣依頼、各種会議、指導者選出などでご意見をいただいております。また、設立当時の茂木会長が清原体育協会の会長で、同体協が各種大会を主催する中で作新学院大学との協力関係が築かれました。設立後には、大学生が指導者として活動いただく中、インターンシップとして毎年スポーツクラブで5~6名の大学生を受け入れ、相互交流の良い機会になっています。2016年からは作新学院大学と清原地域振興協議会、いきいきエンジョイ清原SCの合同主催によるスポーツの祭典を開催するなど、スポーツを通じた地域の活性化を目的に協力態勢ができてきています。

5 団体合同で「清原スポーツ祭典」を開催

クラブ単独の体験教室→機運高まり合同祭典に発展

2016年11月27日に「第1回清原スポーツ祭典」を、2017年11月12日には「第2回清原スポーツ祭典(兼河内地区SCフェスタ)」を作新学院大学構内で開催しました。それ以前は、いきいきエンジョイ清原単独で、市立清原中学校体育館にてクラブで行っているスポーツ種目の体験教室という形で開催していましたが、2015年に清原地域として「スポーツ活動を高め、地域を盛り上げよう」との機運が高まり、清原地域振興協議会が主体となり作新学院大学、清原地区自治会、清原体育協会、いきいきエンジョイ清原SCの5者合同でスポーツ祭典を催すことが決まりました。

大学生が献身的な支援活動 県内プロチームの応援も

スポーツ祭典実施前に行った2016年2月のいきいきエンジョイ清原SCの体験教室には、作新学院大学、清原地域振興協議会も参加され、スポーツ祭典に向けた姿を体感していただきました。その後、清原スポーツ祭典実行委員会で活発な討議がなされ、チラシや広告による集客を図り、11月の「第1回清原スポーツ祭典」の開催にこぎ着けることができました。祭典の当日は、大学生にもお手伝いいただき、用具の準備から片付け、体験者誘導など、献身的に活動してくださいました。また、実際に学生自ら体験に加わっていただくなど、楽しい時間を共有できました。さらに、県内プロスポーツチームである栃木SC(サッカー)、宇都宮ブリツェン(自転車)、栃木ブレックス(バスケットボール)からも応援をいただき、より充実させることができました。教室に参加した子どもたちは、どの子も笑顔で瞳を輝かせ、大きな喜びとなったのではないのでしょうか。

第2回祭典から宇都宮市内の8つの総合型クラブも参加

第2回スポーツ祭典(兼河内地区SCフェスタ)では、河内地区連絡協議会に加盟する10クラブのうち宇都宮市内8つの総合型スポーツクラブも運営に参加し、独自の展示ブースを設置して来場者にクラブの活動をPRするだけでなく、各種目への応援(用具設置・撤去、ボール拾い等の補助、体験者の誘導など)を行うなど盛り上がったイベントとなりました。

スポーツ体験種目以外にも、小学生を対象とした栃木SCによるサッカー教室や作新学院大学からのご提案で組まれた大学生によるランニング教室、ドッジボール、鬼ごっこ等のプログラムが展開され、子どもたちから歓声が上がっていました。

2018年度もこれまでのつながりを大切に、第3回開催に向けて協議を続けているところです。

※体験種目: バドミントン、スポーツ吹き矢、スポンジテニス、3B体操、エアロビクス、卓球、ソフトテニス、グラウンドゴルフ、輪投げ

4 作新学院大との教室連携は、小中学生会員と大学生にも学びの場に

バドミントン教室とソフトテニス教室で大学生が指導

先述のとおり、作新学院大学から小・中学生のバドミントン教室、ソフトテニス教室に学生指導者を受け入れてから10年近くになります。この間、当クラブとの連携で大学側の窓口役となったのが経営学部スポーツマネジメント学科の福田将史教授です。同教授の「インターンシップA」の授業では半期15回のうち5回を実技としており、当クラブでの教室指導を通して学生と小・中学生会員、相互の学びの場となっています。

また、プロサッカーチーム栃木SCの本拠地グリーンスタジアムが近隣にあり、本クラブでは栃木県の事業であるプロスポーツチーム派遣交流事業を活用し、当クラブの子ども会員向けサッカーイベントに栃木SC選手に来ていただくなどの連携事業がありました。

5 学生指導者のエネルギーが小中学生に伝わり「生きた学習」に

指導を受けた小・中学生会員にとっても、指導に当たった学生にとっても相互に有意義な活動となっているようです。学生は、活動を通して目の前の子どもたちと触れ合うことで地域に役立つ喜びを感じることができます。それによって得た学生指導者のエネルギーは、指導を受ける小中学生会員にとっても、しっかりと伝わっている様子で、そうしたエネルギー交換にも似た「相互の学び」は、単なる地域交流の域を超えて、まさに「生きた学習」となっていると言えるのではないのでしょうか。

6 帰路交通手段の関係で限定される学生指導者

スクールバスは夜8時で終了

福田教授によると、学生指導者の交通手段が課題の一つになっているということです。クラブが活動拠点としている中学校と大学は隣接しており、行き来する点では好立地です。しかし、バドミントン教室が終了するのは夜8時半過ぎで、参加する小・中学生会員は保護者の送迎ですが、学生にとっては駅へ向かう大学のスクールバス最終運行時間が夜8時までであるため、近隣に住んでいるか、自家用車等を所有していなければ交通手段がなくなってしまいます。

会員の習熟度が高く、学生指導者も高い競技レベルが必要

競技レベルの確保も課題のようです。バドミントン教室に集まる小・中学生会員は、学校での部活動後さらに練習の場を求めてやってくるため、競技レベルもある程度高くなっています。そのため、恒常的に指導者派遣をしようとする学生も競技レベルもある程度高いものが求められます。しかし、バドミントン部の学生の練習時間や各自のコンディショニング時間の確保と、クラブでの教室指導の両立は難しいのが現状です。一方、バドミントン経験者で大学部活動未加入者の中から、指導するに足る競技レベルを持つ学生を見つけることも難しい状況です。

そこで、「インターンシップA」の実技5回分を1回の集中講義とすることで大学生の負担を軽減し、競技レベルとクラブとの交流機会の両方を保ったまま、小・中学生会員と1日ゆったりと交流を持つことが可能となっています。

7 ① 役員の世代交代、指導者と活動場所の確保が課題

今、クラブとしては、4つの課題があります。それは、「クラブ役員の世代交代」、「指導者の確保」、「活動場所の確保」、「昼時間帯に活動する際の指導者確保と会場の確保」です。

特に、クラブ役員は、クラブ発足当時からほとんど変わらず、新しい役員が入っていません。若い人達へいかにしてバトンを引き継いでいくかが課題の一つです。

また、活動場所の確保については、公民館をお借りして活動している種目もありますが、体育館を利用して昼間に活動を行うには学校では不向きです。そのあたりを解決できればと模索しています。

(いきいきエンジョイ清原スポーツクラブ 大森 満徳)

クラブプロフィール

設立年月日 平成22年3月27日

所在地 栃木県宇都宮市清原地区

運営 会員数236名(平成30年3月末現在)、予算規模280万円(平成29年度)

有給職員 1名

特徴

いきいきエンジョイ清原スポーツクラブは、心の豊かさを求める交流の場と楽しみながら健康を保てる種目および、心と身体の健康を保つ安らぎのある充実した時間を提供します。また、子どもから高齢者まで気軽にスポーツ活動に参加できる環境整備を目指し、健康で活力ある地域づくりに寄与します。

連絡先 〒321-3235 栃木県宇都宮市鑑山231 宇都宮市立清原中学校体育館内

電話 028-666-6231

E-Mail kiyohara.s-c@peach.plala.or.jp

